

## 日本語の主題マーカ―

野田 尚史 (大阪府立大学)  
E-mail:noda@lc.osakafu-u.ac.jp

### 1. この発表の内容

この発表では、日本語の主題マーカ―について、ほかのSOV言語との対照を視野に入れながら、(1)から(8)のようなことを述べる。

- (1) 主題を表す手段：主題を表す手段には、形態的手段(主題マーカ―)、文法的手段(語順)、音声的手段(音調)があり、日本語では形態的手段が発達している。
- (2) 書きことばと話しことばの主題マーカ―：日本語の主題マーカ―は、書きことばでは「は」が代表的である。話しことばでは、無助詞が代表的である。
- (3) 主題と非主題の対立：文の成分は主題マーカ―がつく「主題」と主題マーカ―がつかない「非主題」のどちらかであるかで対立しているととらえるべきである。
- (4) 主題になれる文の成分：文の成分の中には、「が」格成分のように主題になりやすいものから、様態を表す副詞的成分のように主題にならないものまでである。
- (5) 主題になりやすい名詞：名詞の中には、「私」や「これ」のように主題になりやすいものから、「だれ」「どこ」のように主題にならないものまでである。
- (6) 従属節の中での主題：「～たら」のように従属度の高い従属節の中では主題は現れない。「～けれど」のように従属度が低い従属節の中では主題は現れる。
- (7) 文章・談話の中での主題：文章・談話の中では、主題をもつ文は話題を継続するのに使われ、主題をもたない文は話題を導入・転換するのに使われる。
- (8) 判断の主題と関連の主題：日本語の主題には、文のレベルで判断の対象を表す「判断の主題」と、文章・談話のレベルで文脈との関連を表す「関連の主題」がある。

### 2. 主題を表す手段

#### 【主題を表す一般的な手段】

主題を表すのに使われる手段は、一般的には(9)から(11)の3つである。

- (9) 形態的手段：日本語の「は」のような主題マーカ―
- (10) 文法的手段：主題を文の前のほうにおくといった語順
- (11) 音声的手段：主題を強く発音せず、主題の後に音声的休止をおくといった音調

この3つの手段の中では、形態的手段がいちばんわかりやすく、次が文法的手段、いちばんわかりにくいのは音声的手段である。

日本語や韓国語のように主題を表す形態的手段をもつ言語は、文法的手段と音声的手段も併用しているのが普通である。中国語やスペイン語のように主題を表す形態的手段が発達していないが文法的手段をもつ言語は、音声的手段も併用しているのが普通である。そして、英語のように主題を表す形態的手段も文法的手段も発達していない言語は、音声的手段だけを使っている。

#### 【主題を表す日本語の手段】

日本語には、(12)の「は」のような主題を表す形態的手段(主題マーカー)がある。

(12) 田中さんはあした広島に帰る。

日本語で主題を表す手段は、形態的手段が中心になるが、文法的手段や音声的手段も同時に使われる。主題は他の成分より前におかれるのが普通だが、この語順は文法的手段である。また、主題は強く高く発音されず、主題の後には音声的休止をおくことができるが、これは音声的手段である。

(13)のような「も」も主題を表している。「も」そのものには主題を表す機能はないが、(14)の「妹は」に「も」が加わると、主題を表す「は」が消える。その結果、「も」が主題を表しているように見える。

(13) 妹もこの会社に勤めています。

(14) 妹はこの会社に勤めています。

主題を表す特別な形態はないが、構文として主題を表す場合もある。(15)では、「店長」が主題になっていると考えられる。(15)は(16)とほぼ同じ意味を表している。(16)の「店長は」が主題であれば、(15)の「店長」も主題だと考えたほうがよい。

(15) 私が店長です。

(16) 店長は私です。

(15)のように述語が名詞の文は、基本的に必ず主題をもつ。主格(主語)の「私」が主題でない場合は、述語の名詞が主題になるのが普通である。

### 3. 書きことばと話しことばの主題マーカー

#### 【書きことばの主題マーカー】

日本語の書きことばの代表的な主題マーカーは「は」である。書きことばやフォーマルな話しことばでは、主題を表すときは(17)のような「は」が使われる。

(17) 荷物は届きましたか。

そのほか、「とは」「なら・だったら・でしたら」なども主題を表すマーカーになる。「は」以外は、主題を表すだけではない。他の意味が加わる。たとえば、(18)のような「とは」は

「というのは」の意味であり、主題について内容を説明するという意味が加わっている。

(18) ギガとは10億倍ということである。

また、(19)のような「なら・だったら・でしたら」は、相手の文章に出てきたものを受けて主題にしたという意味が加わっている。

(19) ご依頼の明細書でしたら、きのうお送りしたメールに添付しておいたと思います。

#### 【話しことばの主題マーカー】

日本語の話しことばの代表的な主題マーカーは、何も助詞がつかない「無助詞」である。インフォーマルな話しことばでは、主題を表すときは(20)のような無助詞が使われる。(ただし、無助詞は主題ではない「が」格や主題ではない「を」格を表すこともある。)

(20) 荷物\_\_，届いた？

(21)のように無助詞ではなく「は」を使うと、対比的な意味が強くなる。

(21) 荷物は，届いた？

そのほか、「って」「なら・だったら・でしたら」なども主題を表すマーカーになる。「は」以外のマーカーは、主題を表すだけではない。他の意味が加わる。たとえば、(22)のような「って」は基本的に書きことばの「とは」に対応するものであり、主題について内容や属性を表すという意味が加わっている。

(22) 田中さんっていい人だよ。

また、(23)のような「なら・だったら・でしたら」は、書きことばの場合と同じで、相手の発言に出てきたものを受けて主題にしたという意味が加わっている。

(23) 「プロジェクト、ないかな？」「プロジェクトだったら、そこにあるよ。」

#### 4. 主題と非主題の対立

主題は、文の成分の一つ一つについて、それが主題であるか主題でないかという点で対立しているカテゴリだと考えなければならない。

(24)の「荷物は」は主題、(25)の「荷物が」は主格というような考えかたはおかしい。主題か主題でないかという主題のカテゴリと、「が」格(主格)か「を」格(対格)か「に」格(与格)かといった格のカテゴリは、まったく別のものである。(24)の「荷物は」は主題のカテゴリとしては主題、格のカテゴリとしては「が」格(主格)と考えなければならない。(25)の「荷物が」は主題のカテゴリとしては非主題、格のカテゴリとしては「が」格(主格)と考えなければならない。

(24) 荷物は4時に届きます。

(25) 4時に荷物が届きます。

これを表にすると、次のようになる。

	「が」格	「を」格	「に」格	「で」格
主 題	～は	～は	～には	～では
非主題	～が	～を	～に	～で

表の上下の対立は主題のカテゴリーのもので、主題と非主題の対立になっている。表の左右の対立は格のカテゴリーのもので、「が」格や「を」格、「に」格などが対立している。

## 5. 主題になれる文の成分

### 【主題になれる文の成分の種類】

日本語の場合、主題になれる文の成分は、(26)から(31)のようなものである。

- (26) 格成分
- (27) 格成分の連体修飾部
- (28) 述語名詞の連体修飾部
- (29) 被修飾名詞
- (30) 従属節の中の格成分
- (31) 節

### 【格成分が主題になった文】

前の(26)の「格成分」が主題になった文というのは、(32)のようなものである。(32)は、(33)の「佐藤さん(が)」が主題になった文だと考えられる。

- (32) 佐藤さんはピアノを弾いてくれた。
- (33) 佐藤さんがピアノを弾いてくれた(こと)

格成分の中で主題になりやすいのは、動作の主体を表す「～が」や、与格主語といわれる、所有や可能の主体を表す「～に」である。反対に、文の主題になりにくいのは、能力や感情の対象を表す「～が」や、出発点や通過点を表す「～を」、結果や原因を表す「～に」、手段や材料を表す「～で」のほか、「～へ」、「～と」である。

### 【格成分の連体修飾部が主題になった文】

前の(27)の「格成分の連体修飾部」が主題になった文というのは、(34)のようなものである。(34)は、(35)の「このホテル(の)」が主題になった文だと考えられる。

- (34) このホテルはレストランが充実している。
- (35) このホテルのレストランが充実している(こと)

【述語名詞の連体修飾部が主題になった文】

前の(28)の「述語名詞の連体修飾部」が主題になった文というのは、(36)のようなものである。(36)は、(37)の「この犬(の)」が主題になった文だと考えられる。

(36) この犬は足が短いのが特徴だ。

(37) 足が短いのがこの犬の特徴(であること)

【被修飾名詞が主題になった文】

前の(29)の「被修飾名詞」が主題になった文というのは、(38)のようなものである。(38)は、(39)の「みかん」が主題になり、「みかん」のあとに「の」が入った文だと考えられる。

(38) みかんは小さいののほうが甘い。

(39) 小さいみかんのほうが甘い(こと)

【従属節の中の格成分が主題になった文】

前の(30)の「従属節の中の格成分」が主題になった文というのは、(40)のようなものである。(40)は、(41)の「ハードディスク(を)」が主題になった文だと考えられる。

(40) ハードディスクは修理するのがむずかしい。

(41) ハードディスクを修理するのがむずかしい(こと)

【節が主題になった文】

前の(31)の「節」が主題になった文というのは、(42)のようなものである。(42)は、(43)の「日程を決めた」という節が「の」で名詞化され、主題になった文だと考えられる。

(42) 日程を決めたのは高橋さんだ。

(43) 高橋さんが日程を決めた(こと)

6. 主題になりやすい名詞

【主題になりやすい名詞の種類】

主題になりやすい名詞は、(44)から(47)のようなものである。

(44) 話の現場にあるものを指す名詞

(45) 前の文脈に出てきたものを指す名詞

(46) 話の現場にあるものや前の文脈に出てきたものを指す名詞に関連がある名詞

(47) 聞き手や読み手の意識にあると思われるものを指す名詞

前の(44)の「話の現場にあるものを指す名詞」というのは、(48)の「私」のようなものである。「これ」や「あの山」なども話の現場にあるものを指す名詞であり、主題になりやすい。

(48) 私は準決勝で負けました。

前の(45)の「前の文脈に出てきたものを指す名詞」というのは、(49)の「その湖」のようなものである。「その湖」は、前の文の「湖」を指している。

(49) そこに行く途中、湖が見えた。その湖はとても広くて、向こう岸が見えなかった。

前の(46)の「話の現場にあるものや前の文脈に出てきたものを指す名詞に関連がある名詞」というのは、(50)の「締め切り」のようなものである。「締め切り」は、前の文に出てきた「レポートを出す」ことに関連がある名詞である。

(50) レポートを出してください。締め切りは来週の金曜です。

前の(47)の「聞き手や読み手の意識にあると思われるものを指す名詞」というのは、(51)の「村山富市首相」のようなものである。「首相」は、新聞を読む人の意識にあるものである。

(51) 社会党首相として六日、初めて広島市での原爆死没者慰霊式・平和祈念式（平和記念式典）に出席した村山富市首相は、被爆者援護法制定について記者会見などで意欲は表明したものの確約はできなかった。

(『毎日新聞』1994.8.7, 朝刊13版(はんしん版), p.3, 毎日新聞大阪本社)

#### 【主題になれない名詞の種類】

主題になれない名詞は、「だれ」や「何」のような疑問語、「だれか」や「何か」のような不定語、指す対象を特定できない「知らない人」のような名詞である。「知らない人」が主題になった(52)のような文は不自然である。

(52) \*電車の中で知らない人は私に話しかけてきた。

#### 7. 従属節の中での主題

##### 【強い従属節の中での主題】

強い従属節というのは、(53)から(58)のような節である。

(53) 継起節（～と、～たら、～て、～[連用形]）

(54) 仮定節（～たら、～(れ)ば、～と、～ては、～ても）

(55) 様態節（～ように、～ほど）

(56) 時間節（～とき、～まえに、～あとで、～まで）

(57) 連体修飾節（～[名詞]）

(58) 名詞節（～こと、～の、～か）

このような強い従属節の中では、(59)のように主題が現れない。(60)のようになる。

(59) \*加藤さんは忙しかったら、高木さんをお願いしよう。

(60) 加藤さんが忙しかったら、高木さんをお願いしよう。

【弱い従属節の中での主題】

弱い従属節というのは、(61)のような節である。

(61) 並列節(～て、～[連用形]、～し、～けれど、～が)

このような弱い従属節の中では、(62)のように主題が現れる。単文と同じである。

(62) 加藤さんは忙しそうだが、高木さんはそうでもなさそうだ。

【「～から」「～ので」節の中での主題】

理由節の「～から」や「～ので」は、強い従属節と弱い従属節の間のものである。文の焦点になっているときは強い従属節になり、文の焦点になっていないときは弱い従属節になる。

文の焦点になっているというのは、主文の内容より従属節の内容のほうを相手に伝えたいときである。(63)の最後の文のような場合で、従属節の中に主題は現れない。

(63) 「じゃ、どうして桃子に渡したりするのよ！ どうして直接会いにこないのよ！」  
.....[省略].....

「貞が、あなたのこと好きみたいだったから、なんか会いづらくなって.....」

(鎌田敏夫『男女七人夏物語(上)』p.274, 角川文庫, 1988)

文の焦点になっていないというのは、従属節の内容より主文の内容のほうを相手に伝えたいときである。(64)の最後の文のような場合で、従属節の中に主題が現れる。

(64) 曲の始めの音と終わりの音というのは、原則的に決まっています。ふつう、その曲の調のⅠ度で始まって、終わるときにもまたⅠ度になります。.....[省略].....

ハ長調でやってみましょう。ハ長調のⅠ度はCですから、Cの中の音つまりドかミかソの中から、最初のメロディーの音を決めます。

(小林亜星『やさしい作曲のしかた』p.52, 成美堂出版, 1987)

8. 文章・談話の中での主題

【文章・談話の中での主題をもたない文】

文章・談話の最初では、主題をもたない文は、(65)のように話し手が知覚したことを描写したり、場面を設定したり話題を導入するのに使われる。

(65) 三本足の犬が、通行人の足元を縫って歩いてきた。

(宮本輝『道頓堀川』p.3, 角川文庫, 1983)

文章・談話の途中では、主題をもたない文は、できごとが起きたことを述べたり、(66)のように話題を転換するために使われる。

(66) 五月の半ばにレイコさんから手紙が来た。

(村上春樹『ノルウェイの森(下)』p.195, 講談社, 1987)

### 【文章・談話の中での主題をもつ文】

文章・談話の最初では、主題をもつ文は、話の現場にあるものや、(67)のように聞き手の意識にあるものについて述べるために使われる。

(67) 憬子「(お店の人に)あの、文京大学の平田先生は……」

(北川悦吏子『君といた夏』p.90, 角川書店, 1994)

小説では、最初の文で、(68)のように読み手の意識にないものを主題にすることができる。

(68) その疑いは、男がサラダに手をつけ始めた時からすでに生じていた。

(林真理子『最終便に間に合えば』p.9, 文春文庫, 1988)

文章・談話の途中では、主題をもつ文は、前の文脈に出てきたものを主題にしたり、(69)のように前に出てきたものに関係があるものを主題にして話題を継続するのに使われる。

(69) 彼より若い世代はサーフィンをどんどん変えていった。それを可能にしたのは技術革新である。 (『SINRA』1995.5 p.141, 新潮社)

## 9. 判断の主題と関連の主題

主題には(70)と(71)の2つの面がある。日本語の主題も両方の面をもっている。

(70) 判断の主題：そのとき以外のことも考えた判断の対象を表す

(71) 関連の主題：前の文脈や話の場面と関連があることを表す

判断の主題というのは、(72)のように、恒常的な状態を表す名詞や形容詞が述語になっている文や、くりかえしおきる動作やできごとを表す動詞が述語になっている文の主題である。

(72) 蘭島海岸は北海道の西部、日本海に面した海水浴場である。

(渡辺淳一『白い宴』p.3, 角川文庫, 1976)

関連の主題というのは、(73)のように、前の文脈にでてきたものや話の現場にあるもの、いつでも聞き手の意識の中にあるものなどが主題になるときの主題である。

(73) 「金はその千円しかないよ」

長原はきっぱりと言った。

(林真理子『最終便に間に合えば』p.48, 文春文庫, 1988)

判断の主題は文のレベルのものであり、関連の主題は文章・談話のレベルのものである。

## 参考文献

久野暲(1973)『日本文法研究』大修館書店。

野田尚史(1996)『「は」と「が」』(新日本語文法選書1), くろしお出版。

野田尚史(2002)「主語と主題 複合的な概念である「主語」の解体に向けて」『言語』31-6(『言語』30周年記念別冊 日本の言語学), pp.38-49, 大修館書店。

益岡隆志(編)(2004)『主題の対照』(シリーズ言語対照5), くろしお出版。